

小学校教育課程研究協議会【国語】

岐阜県教育委員会

日 時 令和4年7月29日（金）9：00～12：00

開催方法 オンライン会議システム（Webex Meetings）

【全体主題】

「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する各教科等の授業改善
～ICT（1人1台端末等）の有効な活用を通して～

1 日程

- 8：00～ 9：00 受付（オンライン）
9：00～ 9：15 全体会「総則について」
9：15～10：00 国語科全体説明
① ICTの効果的な活用について
② 指導と評価の一体化について
10：10～12：00 地区別グループ協議

2 全体会・全体説明の接続について

- ・アプリによる接続（Webex Meetingsを使用する場合）
ミーティング番号 573 966 854
- ・ブラウザによる接続
URL <https://gon.webex.com/meet/gec-01>

3 地区別グループ協議の接続について

| 地区 | アプリ（Webex Meetings）による接続 | ブラウザによる接続 |
|------|--------------------------|---|
| 岐阜地区 | 918 242 330 | https://gon.webex.com/meet/gec-02 |
| 西濃地区 | 166 318 2360 | https://gon.webex.com/meet/gec-03 |
| 美濃地区 | 166 960 3825 | https://gon.webex.com/meet/gec-04 |
| 加茂地区 | 919 406 726 | https://gon.webex.com/meet/gec-05 |
| 東濃地区 | 919 802 138 | https://gon.webex.com/meet/gec-06 |
| 飛騨地区 | 166 824 5622 | https://gon.webex.com/meet/gec-07 |

全体会で紹介した資料のホームページアドレス

<学びを変える> ICT 活用ガイド～令和3年度 ICT 活用実践事例集～

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/292977.pdf>

令和元年度岐阜県版評価の手引き

<https://www.gifu-net.ed.jp/ggec/令和元年度岐阜県版評価の手引き/>

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

令和4年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について

<https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

ぎふっこ学び応援サイト

<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/61512.html>

NEW! GIFU ウェブ ラーニング(小学校算数)

<https://manabi.gifu-net.ed.jp/>

ぎふ環境学習ポータルサイト(中学校)

<https://gifu-kankyo.pref.gifu.lg.jp/>

見方・考え方を働かせて資質・能力を育成する

1 「見方・考え方」を働かせる

(2) 改訂の基本方針

③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けや授業改善の推進

オ 深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。

下線担当「小（中）学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」より

2 国語科ならではの物事を捉える視点や考え方「言葉による見方・考え方」

第1節 国語科の目標

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」より

言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉えたり問い直したりして言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながることになる。

また、言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成する。言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成しているのは、この考え方を示したものである。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」より

3 「言葉による見方・考え方」を働かせるとは

言葉に着眼して、吟味して、言葉への自覚を高めること

| | |
|----------|---|
| 対象と言葉 | 対象とは、事物や状態、考えや気持ちなど、事態のあるもののこと。これらと言葉との関係。 |
| 言葉と言葉の関係 | 言葉同士の関係。例えば、類義語や対義語のように意味上で明確な関係があるものや、名前のある関係以外の関係も含む。 |
| 言葉の意味 | 言葉が指し示す意味。 |
| 言葉の働き | 事物の内容を表す働き、相手とのつながりを作る働きなど。学習指導要領〔知識及び技能〕に指導事項として新設。 |
| 言葉の使い方 | 相手や状況に応じた言葉遣いなど。 |

「着眼して捉えたり問い直したりする」とは

例えば、同じ意味を持つ言葉でも、相手や状況に応じて使い分けたり、ある文章を一読した際に捉えた言葉の意味を、再度、文脈に即して捉え直したりすること。

国語科における ICT の活用

1 中央教育審議会答申より

5. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

- ◆ 「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、**ICTは必要不可欠**
- ◆ **これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要**
- ◆ ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意し、**PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行うことが重要**であるとともに、健康面を含め、ICTが児童生徒に与える影響にも留意することが必要
- ◆ ICTの全面的な活用により、学校の組織文化、教師に求められる資質・能力も変わっていく中で、**Society5.0時代にふさわしい学校の実現が必要**

(1) 学校教育の質の向上に向けたICTの活用

- カリキュラム・マネジメントを充実させ、各教科等で育成を目指す資質・能力等を把握した上で、ICTを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすとともに、従来は伸ばせなかった資質・能力の育成や、これまでできなかった学習活動の実施、家庭等学校外での学びの充実
- 端末の活用を「当たり前」のこととし、児童生徒自身がICTを自由な発想で活用するための環境整備、授業デザイン
- ICTの特性を最大限活用した、不登校や病気療養等により特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供等
- ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備を両輪とした、個別最適な学びと協働的な学びの実現

(2) ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上

- 養成・研修全体を通じ、教師に必要な資質・能力を身に付けられる環境の実現
- 養成段階において、学生の1人1台端末を前提とした教育を実現しつつ、ICT活用指導力の養成やデータリテラシーの向上に向けた教育の充実
- ICTを効果的に活用した指導ノウハウの迅速な収集・分析、新時代に対応した教員養成モデルの構築等、教員養成大学・学部、教職大学院のリーダーシップによるSociety5.0時代の教員養成の実現
- 国によるコンテンツ提供や都道府県等における研修の充実等による現職教師のICT活用指導力の向上、授業改善に取り組む教師のネットワーク化

(3) ICT環境整備の在り方

- GIGAスクール構想により配備される1人1台の端末は、クラウドの活用を前提としたものであるため、高速大容量ネットワークを整備し、教育情報セキュリティポリシー等でクラウドの活用を禁止せず、必要なセキュリティ対策を講じた上で活用を促進
- 義務教育段階のみならず、多様な実態を踏まえ、高等学校段階においても1人1台端末環境を実現するとともに、端末の更新に向けて丁寧に検討
- 各学校段階において端末の家庭への持ち帰りを可能とする
- デジタル教科書・教材等の普及促進や、教育データを蓄積・分析・利活用できる環境整備、ICT人材の確保、ICTによる校務効率化

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して【概要】(令和3年1月26日 中央教育審議会答申)より

5. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた ICT の活用に関する基本的な考え方

○ICTが必要不可欠なツールであるということは、社会構造の変化に対応した教育の質の向上という文脈に位置付けられる。すなわち、子供たちの多様化が進む中で、個別最適な学びを実現する必要があること、情報化が加速度的に進む Society5.0 時代に向けて、情報活用能力など学習の基盤となる資質・能力を育む必要があること、少子高齢化、人口減少という我が国の人口構造の変化の中で、地理的要因や地域事情に関わらず学校教育の質を保証すること、災害や感染症等の発生などの緊急時も教育活動の継続を可能とすること、教師の長時間勤務を解消し学校の働き方改革を実現することなど、これら全ての ICT の課題に対し、**ICTの活用は極めて大きな役割を果たし得るものである。**

下線担当「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して 第1部 総論(令和3年1月26日 中央教育審議会答申)」より

2 学習指導要領における ICT 活用に関する記述

「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」2

○ 情報機器の活用に関する事項

(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童(生徒)がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

「小(中)学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」より

第3章 各学年の内容

2 第5学年及び第6学年の内容 【思考力、判断力、表現力等】

A 話すこと・聞くこと(1)

ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」より

第3章 各学年の内容

2 第2学年の内容〔思考力、判断力、表現力等〕

A 話すこと・聞くこと(1)

ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

B 書くこと(2)

イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。

C 読むこと(2)

ウ 本やインターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動。

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」より

3 国語科における ICT 活用の現状

これまでの国語科における ICT の活用

小学校学習指導要領解説 国語編(平成20年8月)

第5学年及び第6学年「A 話すこと・聞くこと」(2)

ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりする言語活動。

中学校学習指導要領解説 国語編(平成20年9月)

第2学年「A 話すこと・聞くこと」(1)

ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。

これまでの授業において、ICT の活用については、すでに豊富な実践がある。

- ・自分が伝えたいことについて、インターネットを使って調べ、ノートにメモをする。
- ・モデルとなる動画を視聴し、工夫点を見付ける。(デジタル教科書やDVD等の活用)
- ・グループで1台の端末等を活用して、資料を提示しながらプレゼンテーションを行う。
- ・スピーチを録音して、速さや間、強弱、抑揚などを確かめる。
- ・全体や一部の様子をビデオカメラ等で撮影して、全員で視聴する。

4 ICT を活用することにより可能となること

国語科の授業において、ICT を活用することにより、今までやりたくてもできなかった、どのような学習活動や指導が可能となるか。

<ICT を活用することで可能となることとは?>

キーワード

5 資質・能力を効果的に育成する ICT の活用

どんな場で、どのように ICT を活用すると、身に付けさせたい資質・能力をより効果的に育成できるか。

【思考力・判断力，表現力等】 A 話すこと・聞くこと

第5学年 「事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう」

【育成を目指す資質・能力】

A 話すこと・聞くこと

ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

【本時のねらい】 3/4時 「スピーチ動画を作成する。」

自分の伝えたいことを伝えるために、資料を適切な場面で提示し、ポインティング機能を使ったり資料を拡大したりしながらスピーチ動画を作成することができる。

学習過程

ペア学年に「○○言葉」の大切さや取組内容を提案する。

①学習の目的や相手を確認し、学習の見通しを立てる。

②相手や目的を意識してスピーチ動画を作成する。

③全体で交流し、よい点や改善点を考える。

④視点や助言を基にスピーチを練り直す。

①～④のどの場で ICT を活用すると、身に付けさせたい資質・能力をより効果的に育成できるか。

<メモ>

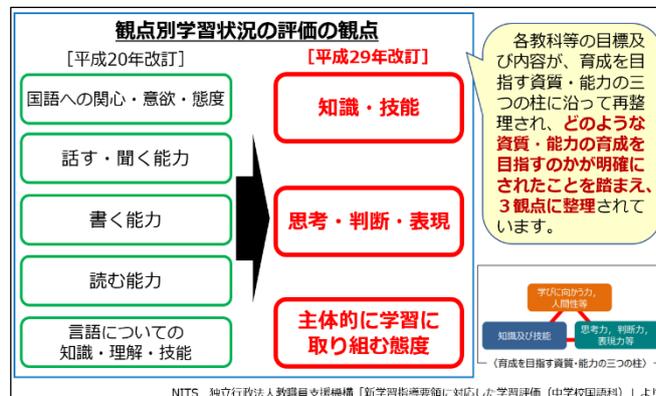
指導と評価の一体化

1 学習評価の充実

②育成を目指す資質・能力の明確化

今回の改訂では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために「何のために学ぶのか」という各教科を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため、すべての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」より



これまでの自身の評価を振り返ってみましょう。

- 評価を「記録に残す」場面が、単元の終末段階のみになっていないか。
- 授業中の挙手や、漢字、ワーク等への取組、ノートの提出率等で、「主体的に学習に取り組む態度」を評価していないか。
- テストの得点分布のみで観点別学習状況の評価をしていないか。
- あらかじめ「十分満足できる」状況と判断されるもの「A」の人数を定めて評価していないか。（「A」・「B」・「C」の人数を決めて評価していないか。）
- 評価規準となる具体的な姿が曖昧になっていないか。

学習評価の基本的な考え方

- ・児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと。
- ・教師の指導改善につながるものにしていくこと。
- ・これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと。

学習指導要領解説に「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す」とあるように、学習評価の対象となるのは、「資質・能力」が育成されたかどうかである。

2 学習評価の充実

(1) 指導の評価と改善（第1章第3の2の(1)）

- (1) 児童（生徒）のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

「小（中）学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」より



2 指導と評価の一体化 ～国語科の授業改善を進めるにあたっての学習指導と評価のポイント～ 学習指導と評価のポイント(授業づくりの視点から)

